

< MBT在宅遠隔医療部会「在宅看護分科会」 >

3/2 “わい和いNARA在宅サポート研究会”が事例検討会 地域で支える医療的ケア児*の病院と在宅の役割を議論



- ・“わい和いNARA在宅サポート研究会”は、奈良県の在宅サポートの在り方を研究する目的で、2018年に奈良医大看護学科在宅看護学:小竹久実子教授(左写真)が会長となって立ち上げた研究会です。(<http://wainara.com/>)
- ・研究会は、誠実で深い思いやりの心を持ちながら、病院におけるケアと在宅におけるケア、それをつなげる医療スタッフなど多職種含めて、ご本人や家族の意思決定を支援する、いわゆる「**忠恕(ちゅうじょ)**」の心をもって、在宅医療、在宅ケア、を行うことを目指す姿としています。

- ・事例検討会には、3月2日(土)奈良医大厳樞会館3F大ホールに、奈良県内の医療的ケア児のお世話に関わるメンバー、約30名が参加して行われました。
- ・今回の事例検討会は

**地域みんなで考えよう。
地域で支える子供の未来
～おうちに帰るにはどうする?
病院と在宅の役割について～**

のキャッチフレーズで呼びかけられ、右に示すプログラム内容で行われました。

<プログラム>

1. 会長挨拶:小竹久実子 氏
2. 事例提供
 - ①「**小児の訪問看護の現状と課題について**」
奈良県看護協会立宇陀訪問看護ステーション
中川朋子 氏
 - ②「**Aくんへの退院後訪問指導**」
奈良県立医科大学附属病院小児センター
原裕美子 氏
3. ①②講演について意見交換

- ・事例提供は、①は医療的ケア児を受け入れる立場から、現場の現状や課題が、②は医療的ケア児を送り出す立場から、送り出した後の在宅訪問の現状と課題が、それぞれ30分ずつ報告されました。
- ・その報告を聞いた後に、参加者はグループに分かれ提示された課題について意見交換を行いました。(下写真)



***医療的ケア児とは、**医学の進歩を背景として、NICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のことです。全国で約2万人いると推計されております。